

# 「小さな拠点」に関する これまでの取組状況

# 地域の現状と事業導入の背景

## 赤東地区の概要

- 町の東部に位置する中山間部の集落。364世帯、人口1,157人（高齢化率34%）。町の中心部まで約8km。地区内には6集落があり、この6集落により自治行政区を形成。
- 現在、同地区には、1保育園（園児19名）、1小学校（児童54名）があるが、それぞれH28年、H30年にそれぞれ統合予定であり、統合による地区内の人口減少や地域活力の衰退が懸念。
- 地区内に医療機関等は無く、10年程前にJAの店舗も撤退。現在は生鮮食料品等を取り扱うスーパー、コンビニ等は無く、住民の多くは車で20分程度かけて近隣市で買い物をする状況。
- 兼業農家が多く、労働の主力は高齢者が担っているが、担い手不足により耕作放棄地等が増加。

## 事業導入の背景

少子高齢化が加速する中で、同地区の精神的な拠り所でもある、**小学校・保育園の統合が決定**したことにより、同地区の活性化と集落の維持・強化が大きな課題となったことから、住民参加と協働による地域将来プランの策定（廃校活用検討含む）と、活力ある持続可能な地域づくりの実現する取り組みを展開することを目的に「小さな拠点」事業を導入することとした。

# 赤東地区における主な取組紹介①(H27)

## 赤東未来創造プロジェクトの設置・集落支援員設置

6集落から男女1名（若者中心に）づつの委員を選出し、活性化検討組織を設置（赤東未来創造プロジェクト）して検討開始。併せて、集落支援員を配置しサポート体制を強化

- ・赤東の魅力を100見つけよう  
（地域の魅力・資源を発見するワークショップ）
- ・地元学を活用した地域探訪ワークショップ
- ・赤東地区集落点検アンケート実施し現状を把握
- ・地域機関紙「あかとう堂々」の発行
- ・毎月10日を「あかとうの日」として、住民と意見交換を実施
- ・副知事を招き「赤東の未来を考えるシンポジウム」を開催
- ・赤東未来創造プロジェクトのFacebookページの開設
- ・月イチで地域イベント等の実施計画 …etc.

## 赤東地区の将来プランの方向性・キーワード

- ①田舎らしさ（自然景観や空き家活用等）に特化した戦略
- ②リンゴを主とする美味しい農産物を活かした戦略
- ③消滅した町の無形文化財「赤塩焼」の復活による戦略
- ④SNSを活用した情報発信による戦略
- ⑤三水第二小跡地を地域コミュニティの核とする環境整備

小学校校舎を新たな地域コミュニティ拠点（小さな拠点）として再整備し、交流人口の増加、定移住の増加を図ることにより、地域活力の維持・向上を目指す！



# 赤東地区における主な取組紹介②(H28)

「Think Big ,Start Small, Scale Fast (大きく考え、小さく始め、素早く展開)」の理念の下に、  
できることから始めようと様々な取り組みを展開しながら、将来プランの策定に向けて小学校跡地活  
用検討を本格化

- ・ 三水第二小学校脇の荒廃地を整備しヒマワリを栽培やヤギの飼育
- ・ 『BigUp A K A T O【ビゴップ (盛り上げていこう) 赤東】』の開催  
(町出身のレゲエクルーによる座談会、世界一のレゲエダンサーの講演会、レゲエパフォーマンス披露などを行なった地域活性化シンポジウム)
- ・ 地域の高齢者を招待して、三水第二小学校見学会を実施
- ・ 小学校跡施設活用事例の視察



荒廃地を整備して様々な取り組みを実施

地域の高齢者を招いて、小学校見学会と茶話会を実施

150人の来場者で賑わった「ビゴップ赤東」

# 今後の検討・取組等について

# これまでの検討結果を集約した一つのイメージとして…

## 第二小学校跡地を地域の新たな拠点・活性化のシンボリックな存在として機能させる！

町内外の多世代が集い、交流できる場等の「拠点」として、第二小跡地を整備する。

地域住民はもとより、町内外の様々な人々や事業者等が利用できるプログラム等を揃えることで、多様で多世代の人々が集うコミュニティの場として機能させ活性化につなげる！

図書・学習スペース等

赤塩焼体験等



三水第二小学校



高齢者等集いの場



児童クラブ機能



各種体験教室等



カフェ・レストラン

各種イベント開催



公園整備等



町内外の事業者によるワークスペース等の活用、大学合宿・農業研修等の長期ステイや、都市部の親子自然体験・農業体験等に対応する宿泊機能の整備等。

町内外から人を呼び込める、多様なコンテンツの検討。事業者として自立可能なシステムの確立。

### 各教室利用イメージ



交流スペース・常駐事務所等の整備

### 各教室利用イメージ

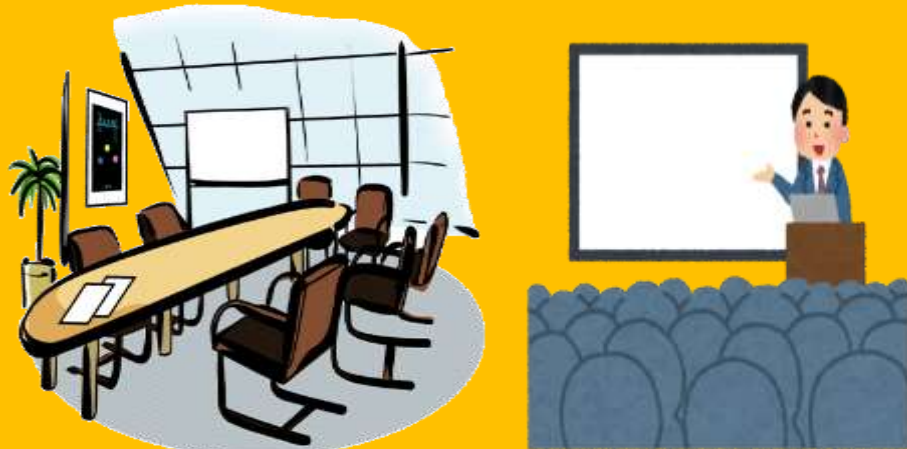


大学合宿等長期ステイ（宿泊）が可能な環境整備



## 三水第二小学校

町内外の事業者の職場、研修、創業支援機能スペース等



滞在型の自然・農業体験に対応した環境整備



## 年間を通じて誘客が可能なコンテンツの提供

イベント等利用

企業研修・大学合宿等

定期的に各種イベント企画・プログラム講座等の開催

地域資源等を活用したサマースクール、ウィンタースクール等

常設利用

各種体験（自然体験、農業体験、赤塩焼体験等）講座、イベントメニュー等

スモールビジネス創業（カフェ飲食業店舗・地域産品物販・地域コンビニ等）

ライブラリー（図書館、マンガ図書館等）

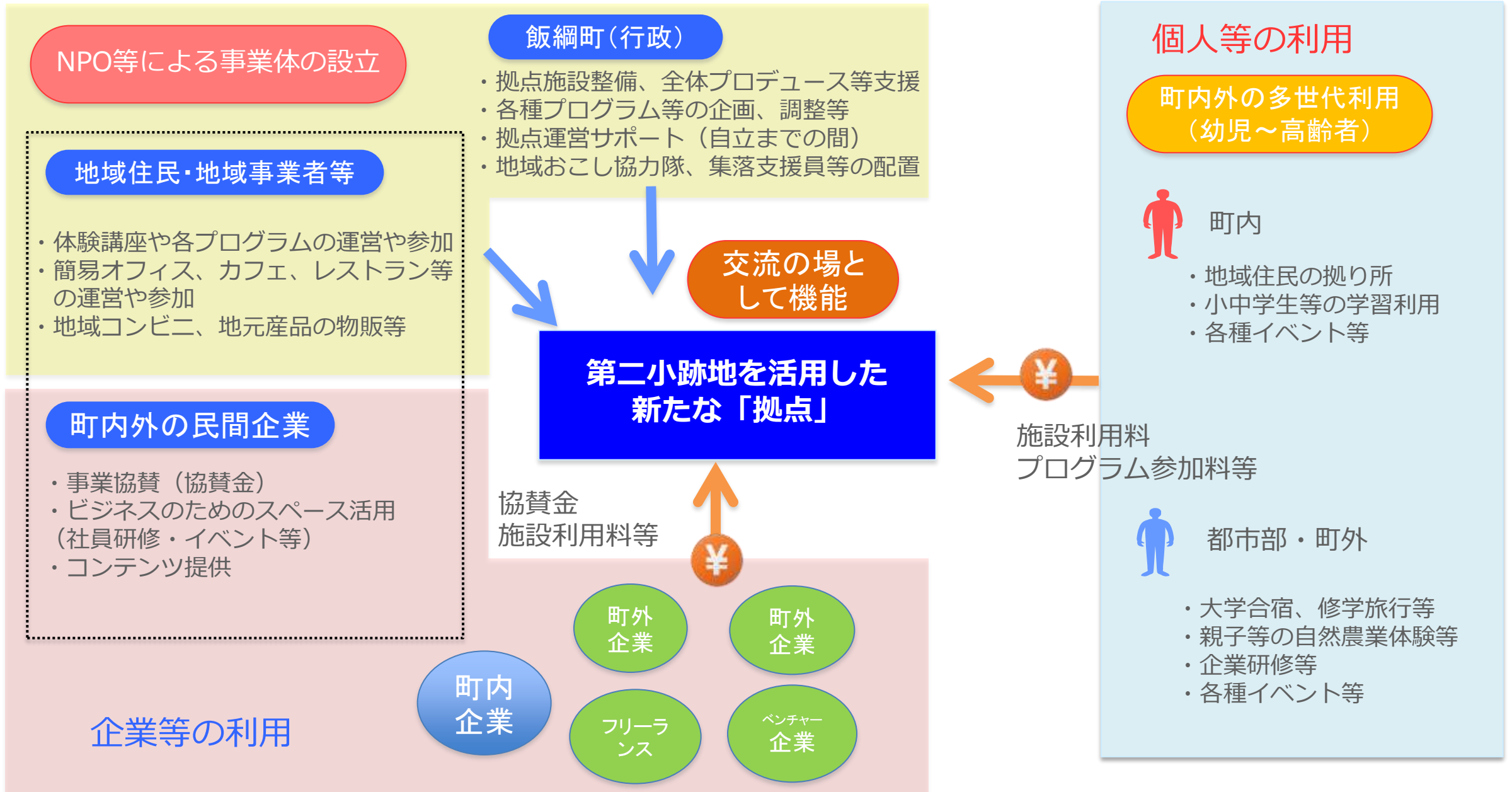
放課後児童クラブ、子ども向け(町内小中学校等)学習プログラム、寺子屋制度、多世代相互交流等

高齢者等の集い（運動やリラクゼーション等施設）スペース

子育てママのしごと拠点、民間企業等のシェアオフィス、ワーキングスペース等



# 拠点運営にあたっての自立した事業体としてのイメージ（マネタイズイメージ）



# 「地域課題を解決し、地域に活気を生む」ために…

## 目指す姿

### 課題と今後の取組…

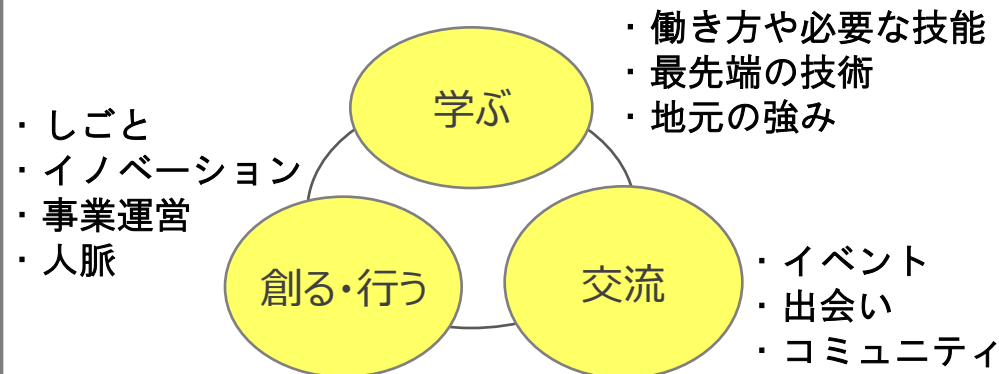
- ・拠点を運営する自立した事業体（地域住民・地域事業者・外部からのプロフェッショナル等によるNPOなど）の構築
  - ・キーパーソンの発掘と育成、人や事業者をつなぐ仕組みづくり
  - ・人を呼び込める多様なコンテンツの確立
  - ・自走可能なマネタイズの構築
- …etc.

「小さな拠点」事業を活用し検討を進めている「赤東地区の将来プラン」策定と、町が現在進めている地方創生交付金事業を活用した、「しごとの創業・交流拠点事業」との連携・融合も視野に入れ、「しごと」と「学び」をテーマに、地域内外の幅広い人々が交流できる拠点を一体的に整備することで、地域活力の維持・向上、企業や雇用の地方への流れを促すことを目指す。

### 小さな拠点・交流拠点の構築に向けた3本柱

- ①町を支える子どもたちや若者に、「しごと」と「町」の学びの場を提供する！
- ②町に魅力的な「しごと」を創り出す！
- ③町の「環境」と「暮らし方」を軸に、定移住促進を図る！

### 第二小学校跡地を交流拠点として…



### 【地域課題の解決等のプログラム】

- 子どもから高齢者まで集いの場の創設
- スモールビジネス創業支援（カフェ、レストラン、コンビニ等）
- シェアオフィス・ワーキングスペース等設置（町内子育てママの働く拠点、テレワーク等）
- 子ども向け等長期ステイプログラム等
- 企業向け宿泊・滞在型研修プログラム等
- 地元産品・商品・サービス等の提供 …etc.

地域内外の幅広い交流を図る“拠点”をベースに、町に「しごと」を創り出し、発信することで、赤東地区に活気を生み、交流人口増と定移住促進を図る！